

海歩きに出かける前に

●潮の干満をチェック！

潮の干満は1日2回。月の満ち欠けにあわせて、潮の干満の時刻が毎日変化します。干潮時刻に、およそ50cm以下まで潮が引くときが海を歩く目安。新聞のお天気欄や、釣具屋さんで売っている「潮位表」で調べられます。ただし、天気が悪いと気圧が低く、潮は予報よりも引かないので注意。

那覇の潮位予報に対して、佐敷や泡瀬などの東海岸側では30分だけ潮の変化の時刻が早まります。

●お天気と風に注意！

低気圧が近づくと、風が強まり波が荒れてきます。普段でも、100回の波のうち1回は高い波が寄せてくるといわれます。無理をしないことが肝心です！

●海をよく知っている人と一緒に！

潮が引いて沖に歩いていって、気がつくと岸側の方から先に潮が満ちてくることがあるサンゴ礁。地形や危険生物をよく知っている人と一緒に遊びに行きましょう。

●服装と持ち物

- ・帽子、日焼け止め
- ・できれば長袖長ズボン（日焼けとけがの防止）
- ・マリンスーツ、長靴、ぬれてもいい運動靴（サンダル・ぞりは滑ってけがをしやすいので×）
- ・軍手、タオル、ぬれた時の着替え
- ・水筒（熱中症予防：こまめに水分補給を！）
- ・あると楽しい観察グッズ：小さなカップ、スコップ、わりばし、虫眼鏡など



海の生きものと遊ぶマナー

●生きものはその場で観察

見つけた生きものは、見つけたその場で観察し、もといた場所に帰してあげよう。生きものによって住んでいる場所は決まっています。違う場所に帰したら困ってしまうはず！

●ひっくり返した岩はもとに戻そう！

岩の裏側にはいろんな生きものが隠れています。でも、観察するのにひっくり返したら、必ずもとに戻して！産み付けられた卵が乾いてしまうかもしれません。

●採集する時は・・・

モヅクやアーサなどの海藻は、根っこの所をのこしてちぎればまた生えてくるでしょう。いろんな場所から少しずつ、がいかかもしれません。貝類は、小さいのは採らないで。大きくなって産卵するまで待ってあげれば、来年またその子どもたちが増えてくるはず。巻貝やカニには有毒種があるので注意！

飼育のために持ち帰るのはやめましょう。海の生きものの飼育には、知識と道具と毎日の世話が必要です。また海に会いに来る方がいいんじゃないかな？

●貝殻はお土産にしてもいいの？

きれいな貝殻やサンゴのかけら。でもきれいな巻貝にはたいていヤドカリが入っています。最近はやドカリも住宅難。空の巻貝はヤドカリの引っ越し先になるので、なるべく海に残しておきましょう。穴が空いたり割れた貝殻や二枚貝ならOK、ヒモをむすんでアクセサリーにできるかも！

サンゴは、茶色っぽい色がついているのは生きています。決して持ち帰らないで。

※ごみは絶対に落とさないで！自分のごみは持ち帰ろう。
落ちていたごみは拾ってね！
（・・・海の生きものたちからのお願いです。）

サンゴ礁のあがない生きもの

●さわるとキケン

- ・クラゲやイソギンチャクの仲間（刺される+毒）
- ・ガンガゼやラップウニなどウニ類（刺される+毒）
- ・オニヒトデ（刺される+毒、すごく腫れる）
- ・ウミケムシ（刺される+毒、岩の下に隠れている）
- ・アンボイナなどのイモガイ類（刺される+猛毒）
- ・ヒョウモンダコ（咬まれる+猛毒、青い模様が美しい）
- ・ゴンズイ、オコゼ、カサゴ（ひれに刺される+毒）
- ・ウミヘビ（咬まれる+猛毒、血清はない）

●たべるとキケン

- ・スベスベマンジュウガニ、ウモレオウギガニ（猛毒、足1本たべれば天国行き）

※海の生物でけがをしたら、どんな生物かよく覚えておき（写真も可）、必ず病院に行ってお医者さんに説明しましょう。生物によって応急処置や治療法が異なります。

守りたい海の生きもの

●サンゴの仲間

1970年代以降のオニヒトデ大発生と、98年の世界規模での海水温上昇による白化現象で、沖縄島のサンゴは8～9割が壊滅しました。サンゴはサンゴ礁の全ての生きもの達の生活基盤となる大切な存在。今、少しずつですが、手のひらサイズのサンゴがよみがえりつつあります。踏まないで、折らないで、大事に大事に見守っていきましょう。

●オカヤドカリの仲間・・・国の天然記念物

アーマンという名で親しまれるオカヤドカリの仲間、沖縄島には4種類。でも、たくさんいるのに天然記念物？

はい、天然記念物とは珍しいからではなく、地域の自然を代表する残すべき自然や生物、という意味なのです。海と陸とを行き来できる環境が残されていることが、陸に暮らし海に子供を放つ彼らにとってはとても重要です。